

カキ種苗輸入による疾病侵入の危険性

2011年4月7日

A C N顧問萩原先生からの情報と指導です。

昨年来、ヨーロッパやオセアニアのカキ類(マガキを含む)では、カキヘルペスウイルス(OsHV-1)変異体による大量死亡が発生しております。今回の震災で東北太平洋沿岸で生産されていたカキ種苗不足の補てんのために、海外から種苗を輸入することの危険性を指摘されています。過去にクルマエビ、マダイ、カンパチ等海外からの疾病侵入で甚大な被害が発生しました。A C N会員としてカキ養殖が同様な経過を辿ることがないように関係者に注意喚起してください。

N P O法人A C N理事長 田嶋 猛

震災に起因するカキ種苗供給不足と疾病侵入の危険性について

2011年3月30日

東京大学大学院農学生命科学研究科 良永知義

東北・関東大震災により、東北太平洋沿岸で生産されていたカキ種苗は、一部を除いて、ほとんど消失してしまいました。従来この海域で生産されたカキ種苗は、全国に輸送され種ガキとして利用されてきました。そのため、この春に予定されている養殖場への種ガキの収容に当たって、東北地方だけでなく全国的に種苗が不足しております。すでに、種ガキ確保のための動きが各地で始まっており、海外を含め、従来とは異なる海域からの種苗入手が検討されているようです。しかし、昨年来、ヨーロッパやオセアニアのカキ類(マガキを含む)では、カキヘルペスウイルス(OsHV-1)変異体による大量死亡が発生しております。この疾病に対する治療法はなく、また、天然海域にカキ類が自然に分布していることから封じ込めを行うことも非常に困難です。そのため、国内に侵入しますと、全国に蔓延し、国内のカキ養殖産業に回復不能な打撃を与えることが危惧されます。カキ養殖業界、水産系大学や研究機関の皆様におかれましては、本疾病の侵入防止のため、最大限の注意をお払いいただきたくお願いいたします。また、周囲の関係者に疾病侵入の危険性について周知いただければと思います。

なお、本疾病の侵入防止等を目的として、注意喚起の文書ならびに本疾病についての解説が農林水産省水産庁増殖推進部ならびに消費・安全局畜水産安全管理課水産安全室長から都道府県等に発信されております。これらの文書を添付いたしますので、詳しくは、そちらをお読みください。

カキヘルペスウイルス 1 型変異株 (OsHV-1 μ var) とは

● 性状、感受性

カキヘルペスウイルス 1 型 (OsHV-1) と呼ばれる DNA ウイルスの変異株。感受性種はマガキ。ヨーロッパヒラガキ、ヨーロッパホタテ及びアサリには感受性ありとの報告もあるが、大量死の報告はない。国内での発生は確認されていない (これまで検査実績なし)。本病はマガキの疾病であって、他の軟体動物や人への感染はない。

● 症 状

死亡率 50 ~ 98% の報告。欧州食品安全機関 (e f s a) によれば、水温 16℃ 未満では大量死は見られないとの報告があり、大量死には OsHV-1 変異株の感染だけでなく、環境要因等が示唆されている。潜伏期間不明、現在のところ治療法はない。

● 昨年の発生状況

4 月	フランス	養殖マガキ	死亡率 50%
7 月	イギリス	養殖マガキ	死亡率 60%
11 月	ニュージーランド	養殖マガキ	死亡率 80%
12 月	オーストラリア	養殖マガキ	死亡率 98%

*OIE に緊急報告があったもの。OIE リスト疾病ではない。

● カキの国内生産・輸入

2009 年の国内養殖生産 (殻付き + むき身) 242,900 トン、食用活、生鮮、冷蔵、冷凍) 輸入量は 2,900 トン。輸入の 98% 以上が韓国から。ヨーロッパ、オセアニアからも輸入されているが輸入量の 3% 未満。種苗としての輸入はほとんどないと思われる。

● 発生情報

OIE Aquatic Animals Commission http://www.oie.int/aac/eng/en_fdc.htm